

～台湾合同セミナーについて～

長尾研究室では、卒業論文提出後の3月中旬に、鯉田研究室のB4の学生と、台湾国立中央大で京都大、広島大、東工大、神戸大、台湾国立中央大などが、毎年合同で行っているセミナーに参加しました。このセミナーは、学生が地震工学について自身が行っている研究を発表し議論しあうというセミナーで、今回で16年目になるそうです。

学生は、ほとんど日本人でしたが台湾での発表ということで、すべて英語での発表でした。普段、英語はまったく使わないので、セミナーの準備(power point, 発表原稿 etc)には時間がかかりました。発表本番では、片言の英語で発表するのに苦戦しました。特に、質疑応答の際、問われている英語がわからない、問われていることが理解できても英語でどう説明すれば良いのかわからないと、今後の英語の重要性を思い知らされるセミナーとなりました。発表自体は不甲斐無い結果でしたが、とてもいい経験をさせてもらったと思います。セミナーは2日間あり、セミナー後、1日目国立中央大の近くの台湾料理屋で他大学の学生と交流しながら、食事をしました。2日目は近くの夜市で、台湾の夜を満喫しました。夜市で広島大の学生に分けてもらった臭豆腐は、強烈な臭いでした。

3日目は、台湾にある地震博物館に行き、1999年に台湾で発生したM7.3の地震に関する展示物を見学しました。台湾は日本と同じくプレートとプレートの境界に位置しており地震の多い国です。この施設では、断層のズレや河床の隆起、倒壊した校舎が当時のまま保存されており、地震の持つエネルギーを肌で実感できました。今回の合同セミナーでは、英語での発表、他大学との交流、台湾の文化に触れるなど様々な経験をさせてもらい、貴重な時間となりました。



写真1：隆起したフィールドトラック



写真2：隆起の説明